

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372201943
法人名	株式会社アバンセラライフサポート
事業所名	アバンセグループホームこころ
訪問調査日	平成20年2月21日
評価確定日	平成20年4月4日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2372201943
法人名	株式会社アバンセライフサポート
事業所名	アバンセグループホームこころ
所在地	一宮市北方町曾根字村東373-1 (電話) 0586-87-3030

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年4月4日

【情報提供票より】(平成20年2月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年4月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	20 人	常勤 13人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月9日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 83.5歳	最低	68歳	最高	94歳
協力医療機関名	一宮市立木曾川市民病院・五藤医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「私の家と言ってもらえるホーム作りを目指します」を理念に掲げている。入居者の行動パターンをよく観察し違った行動をされた場合には、入居者にとってどのような意味があるのか、入居者は何をしたいのか、何をしてもらいたいのか、を入居者と職員で話し合い支援している。このホームに来て本当に良かったと思ってもらえるよう日々のケアに努めている。昨年末に管理者や職員の入れ替わりがあり、まだ職員体制が安定している状態ではなく、家族からも心配の声がでており、職員の確保に現在尽力している。今後、職員育成に力を入れ職員が年1回は外部研修に参加できる体制をつくり、外部の刺激を受け支援の質の向上に役立てられるよう考えている。また、人事考課を取り入れ職員の意欲を高める工夫を予定しており、実現に向けた取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善への取組みとして、理念を玄関に掲示し、感染症のマニュアルを作成した。また、事故の防止を意識し職員がヒヤッ、ハッとしたことを記載するヒヤリハットを書くようになった。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には、パート職員を含めほとんどの職員が参加している。参加するに当たり管理者が一人ひとりに評価の意義とねらいを説明した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年3月に第1回目を実施しているが、その後の継続には至っていない。参加者は家族、町内会長、高齢福祉課職員、管理者、職員である。管理者や職員の異動が続いたこともあり、まずグループホームの状態を安定させることに力を注ぎ中断していたが、近々2回目の運営推進会議を開催できるよう進めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を玄関に置いていたが、直接職員や、法人に話しがあるため、現在は置いていない。家族が意見や、不満などを気軽に話せるよう職員は雰囲気づくりに配慮している。この1年間に管理者や職員の交代が続き、家族からも心配の声が多くあげられた。今回の家族アンケートの結果を真摯に受け止め、家族が不安に思っていることや要望などを今後活かせるよう一丸となって取り組んでいきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、回覧板を受け取っている。寄り合いに参加するまでには至っていないが、ホームとしては地域の清掃や活動にも参加し協力したいと考えている。町内の盆踊りや運動会には、入居者に声をかけただけ参加するように心がけている。ホームのクリスマス会には、地域の幼稚園児が訪問してくれたこともあり、今度は入居者が幼稚園を訪問し交流できたらと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として5項目を掲げ、私の家と言ってもらえるホームづくりを目指している。一人ひとりの個性や趣味などこれまでの生活やその人らしさを継続してもらい、入居者に「今日一日よかったな」と思ってもらえるようなアットホームなケアを心がけている。散歩や外出した時には地域の方と「挨拶を必ずしよう」と職員間で話し合い、地域との関わりに取り組んでいる。		グループホーム独自の理念があり、職員への理念の意識づけがされている。地域活動に少しずつ取り組んでおり、今後は理念の中に地域との関わりについても明文化し、地域密着型サービスとしての役割を反映させることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングの時に、入居者の課題について、反省や注意することなどを話し合っている。管理者はいつも理念を念頭において「その人らしい生活を送るためにはどうすればいいのか」を職員と話し考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、回覧板を受け取っている。寄り合いに参加するまでには至っていないが、ホームとしては地域の清掃や活動にも参加し協力したいと考えている。町内の盆踊りや運動会には、入居者に声をかけできるだけ参加するように心がけている。ホームのクリスマス会には、地域の幼稚園児が訪問してくれたこともあり、今度は入居者が幼稚園を訪問し交流できたらと考えている。		地域との関わり方については今後の課題としており、現在は内部の体制を整えている段階である。まず、入居者、家族を始め、日々の取り組み（実践）を見てもらうことが大切と考えている。地域との交流は少しずつホームのできることを検討し、理解や協力してもらえる関係づくりに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には、パート職員を含めほとんどの職員が参加している。参加するに当たり管理者が一人ひとりに評価の意義とねらいを説明した。前回の改善への取り組みとして、理念を玄関に掲示し、感染症のマニュアルを作成した。また、事故の防止を意識し職員がヒヤッ、ハッとしたことを記載するヒヤリハットを書くようになった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	平成19年3月に第1回目を実施しているが、その後の継続には至っていない。参加者は家族、町内会長、高齢福祉課職員、管理者、職員である。管理者や職員の異動が続いたこともあり、まずグループホームの状態を安定させることに力を注ぎ中断していたが、近々2回目の運営推進会議を開催できるよう進めている。		運営推進会議のメンバーからは、アドバイスをいただけるなど協力してもらえる環境であり、地域に少しずつグループホームのことを理解してもらえるためにも、メンバーの協力を得ながら定期的に開催できるよう今後の取り組みに期待したい。
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の高齢福祉課や福祉課に介護保険、更新などの手続きについて相談し、積極的に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	入居者毎に連絡帳を作成し、行事や受診、最近の様子を家族が訪問した時に見てもらっている。入居者の暮らしぶりなどの写真は、連絡帳に入れ訪問時に家族に渡している。また、職員が入居者の日常の様子を伝えている。介護記録を見てもらうこともある。金銭出納帳については定期的に報告している。急用な場合は管理者が随時電話で連絡を取っている。		個々に合わせた報告は家族の来訪時に連絡帳で伝えている。家族の状況も様々であり、来訪の少ない家族に対しては定期的な報告には至っていない。入居者の暮らしぶりや心身の状況、職員の異動状況などについて個々の家族の状態に応じたアプローチや報告の方法など検討されることを期待したい。
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を玄関に置いていたが、直接職員や、法人の方に話しがあるため、現在は置いていない。家族が意見や、不満などを気軽に話せるよう職員は雰囲気づくりに配慮している。この1年間に管理者や職員の交代が続き、家族からも心配の声が多くあげられた。今回の家族アンケートの結果を真摯に受け止め、家族が不安に思っていることや要望などを今後活かせるよう一丸となって取り組んでいきたいと考えている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員が退職する場合は職員が入居者に説明しているが、家族には報告していない。職員の入れ替わりにより多少雰囲気に変化がでて、新人職員は入居者に叱られたり、励まされたりなど、入居者に馴染んでもらっている。教えていただくという姿勢を忘れず声かけに気をつけている。入居者の態度に変化があった時にはすぐに、先輩職員が中に入り、話しを聞いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は、日勤の仕事を1カ月間経験し、馴染んだ後に夜勤に入り、夜勤は3回先輩職員に付き指導を受けている。2カ月間様子を見て、状況に応じて期間を延長している。外部研修に参加する機会は設けているが、積極的な受講までには至っていない。ホーム内の勉強会が現在滞っており、半年に1回のペースで実施していきたいと考えている。4月より人事考課を導入する予定であり、現在調整している。		職員のやる気や向上心を高めていくためにも、外部、内部の研修に積極的に参加できる体制や、職員の段階に応じた研修の計画など、幅広く勉強していく機会が望まれる。学んだことを日々のケアに活かし、サービスの質の向上に繋がれるよう取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一宮市介護サービス事業者連絡会が2カ月に1回開催されている。愛知県グループホーム連絡協議会に加入しているが、研修への参加や交流には至っていない。今後、職員が研修に参加できるよう考えている。近隣のグループホームとの交流の話はあがっているが、具体的な計画までには至っていない。		他のホームの職員との交流や意見交換する機会は、新たな気づきや発見、思いを共有するなどサービスの質の向上に繋がることから、ホームの状況を考慮しながら、ネットワークを活用されることを期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に希望があれば体験入居をすることが可能である。入居者に少しでも馴染んでもらえるようホームのお茶の時間(10時、15時)に訪問してもらい、一緒にお茶を飲んだり、本人の状態に応じてケアマネジャーと相談し、短期間利用してもらってからの入居に至るなど臨機応変に対応している。入院している場合も面談し、ホームへ訪問してもらうなど、本人の納得を大切に支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から調理の方法(煮物の時には落とし蓋をする)、掃除や水やりの仕方、おしぼりの作り方などを教えられることが多い。礼儀作法や話し方など生活文化の大切さを職員は入居者から学び、入居者の得意分野を通して本人に気持ちよく行なってもらえるよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントシートには、身体の状態、個人の状況は明記されているが、生活歴は具体的な記載には至っていない。入居時に家族にお願いし記入してもらっているが、情報の更新や追加、本人の意向の把握には至っていない。意向の把握には、入居者の日常の言葉から汲み取っている。意思表示が難しい方は、行動や表情から「トイレに行きたい」「お腹がすいた」などの思いを汲み取っている。</p>		<p>本人（家族も含めて）の求めていることの全体を探索しながらそれに添うケアの実践には、アセスメントと介護計画の継続的な展開、チームアプローチが重要である。日々の生活で新しく気づいたことや変化があったことなどは、記録に残し全職員で共有し、情報を蓄積できるよう取り組みに期待したい。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティングで入居者の状況については話し合っている。計画作成担当者が最終的に職員の意見や入居者の状況を見て計画書を作成している。家族には、入居者の状況については説明をしているが、介護計画について説明し確認してもらうまでには至っていない。今後、本人や家族を含めてカンファレンスを行なっていきたいと考えている。</p>		<p>現在、介護計画の期間に合わせた計画書の作成には至っていない。家族には入居者の状況を説明しているが、具体的な計画の説明には至っておらず、今後家族を含めカンファレンスを実施していきたいと考えていることから実現に向けた取り組みに期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期目標6カ月、短期目標3カ月としている。モニタリングは3カ月毎に実施している。ミーティングを月1回各ユニット毎で行っており、介護計画のミーティングは時期に応じて開催するようにしているが、現在はモニタリングや計画の見直しまでには至っていない。</p>		<p>介護計画を見直した場合においても、家族に意向の確認や介護計画書の確認をしてもらえるよう取り組みに期待したい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算は今後受けたいと考えている。ホームの協力医以外を受診する場合は、原則家族に付き添いをお願いしているが、難しい場合はホームで対応することが可能である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が月1回実施されている。入居者前のかかりつけ医に受診することは可能であり、入居者時に確認をしている。家族が病院に付き添う場合は、入居者の状態を用紙に記し家族に渡している。有償の口腔ボランティアの訪問が週1回あり、口腔ケアに努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては家族からの要望も多く、ホームとしても取り組んでいきたいと考えている。24時間連携体制がとれる医療機関の確保が現在課題として捉えている。方針や体勢は整っており、現在はホームでできる限りの対応に努めている。		重度化、終末期に対応していくには、入居者によってケースも異なり、医療機関との連携が重要になってくる。医療機関の確保やホームとしての方針を定め、家族や職員、医療関係者との連携、協力体制の確立に向けて今後の取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には入社時に説明し書類に署名をしている。ホーム内に写真を掲示する時には家族に確認をしている。トイレの介助にあたる際には、声かけに細心の注意を払い「トイレ」という言葉は使用しないようにしたり、本人の耳元で話し他の入居者に聞こえないよう配慮している。		トイレ介助の際の声かけには十分に注意を払い対応しているが、トイレ内で介助にあたる際、ドアの開閉についても常に意識されることを期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間は定めず入居者のペースで起床している。お酒やたばこなどの嗜好品についても制限はせず、健康管理に注意しながら支援している。10時と15時にはNHK体操を実施しており、希望者が参加している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は高齢者用の献立ソフトを参考にしている。積極的に食事の準備に関わる入居者もいるが、気分や日によって手伝っている人もいる。1、2階では入居者の身体状況も異なるが、本人のことは行ってもらえるよう支援している。食事は職員も一緒に摂り、食材の話やニュースの話など楽しく食事がとれるよう努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回以上を基本としている。時間の決まりはないが、現在は職員の入れ替わりがあり、人数の関係や業務の都合により時間や曜日が調整されている。お風呂嫌いな人もおり、声かけやタイミングをみて入浴を促しているが、週2回の入浴が実施できていない時もある。		ホームの体制として、現在は週2回以上の実施が難しい状況であり、職員の人数や業務の都合が優先していることから、体制が落ち着き次第、入居者のペースや希望に応じた入浴を提供できるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月1~2回、入居者のリクエストを聞きながら外出に出かけている。マクドナルドに行った時は、入居者にとっても好評で喜ばれた。日常生活の中で、入居者の得意なことや好きなことを活かしてもらえるよう、食事づくりや洗濯物たたみ、おしぼりづくりなどを行ってもらっている。大正琴やハンドベル、大衆演劇、ミニコンサートなど多種多様なボランティアの訪問があり、入居者も楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月、外出や喫茶店へのモーニングに出かけている。天気の良い日はできるだけ散歩に行けるよう心がけているが、寒い現在の気候や職員の配置人数の問題から日常的には実施できていない。食材を買い出しに行く時には、希望する入居者が一緒に出かけている。		日常の散歩においては天候の問題もあるが、外気に触れるだけでも気分転換にはなることから、現状の中でできることを職員で話し合い、検討されたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に施錠はしていない。各ユニットのドアにはセンサーが設置されているが現在は使用していない。帰宅願望の強い方には、いつでも家に帰れることを認識してもらうために、話しをして気持ちを切り替えるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け消火訓練を実施した。避難訓練の実施や災害時の備蓄品の準備には至っていない。地域への協力依頼や働きかけは今後取り組む予定をしている。		火災や地震、日中、夜間を想定した避難訓練の実施や備蓄品の準備が望まれる。入居者も共に参加し課題や反省点を明確にし、地域の協力も得ながら実施できるよう働きかけに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は高齢者用の献立ソフトを参考にしており、1日1,300kcalを目安にしている。糖尿病の方もいるが医師の指導もあり、皆と同じ物を摂っている。食事量や水分量のチェックをしており、入居者の状態に応じて盛り付けや量を調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1、2階によって、リビングのテーブルの配置が異なり、入居者の状況に合わせて替えている。壁には、時節柄ひな祭りの絵が飾られており、ちぎり絵や色をぬるなどしてユニット毎に制作した。窓枠が大きくとられ、リビングは明るい。口腔ケア体操の紙が廊下に貼られており、カレンダーも数箇所に設置されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットが備え付けられている。入居者は使い慣れた家具や小物、写真、仏壇、テレビ、趣味の品など自由に持ち込んでいる。床はフローリングだが、絨毯を敷いたり畳を敷いている人もいる。電話をつなげている人もおり、家族からの電話を楽しみにしている。花や植物、楽器などの持ちこみもあり、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。